



紅葉の季節ですね。ライトアップなど、神社や寺院に行く予定がある方もいるのではないのでしょうか。子どもの頃はつまらなかったのに、いつの間にか神社やお寺巡りが好きになっていた方も多いのでは？おまいりに行く際は、その神社に祀られている神様や寺院の由来などを下調べしてから行くことで楽しさ倍増です。特に神社が好きな方は、古事記・日本書紀を読んでから行くのもオススメです♪



神社とお寺の違いを知っていますか？……神社は〇〇様、お寺は〇〇〇様。

【神社】

- ・神様が住む場所。
- ・神道（日本だけの宗教）。
- ・神主・巫女（みこ）さんがいる。
- ・日本の八百万の神様、山・森・神木などの自然、特定の人を信仰。
- ・拍手（かしわで）を打つ。ご神体を拝み見ることができない。
- ・現世での幸せを願い、感謝を伝える（他力本願）。
- ・神が降りてくる神域と人が住む世界を区別する為の鳥居や鈴・千木・鯉魚木（かつおぎ）・注連縄（しめなわ）がある。
- ・故人の為に神葬祭を行い、霊璽を祀り、御霊舎に礼拝する。
- ・10日祭、50日祭、一年祭、十年祭など年祭の神式を行う。



【お寺】

- ・僧侶が住み教義を勉強する場所。
- ・仏教（インドや中国から伝わった宗教）。
- ・僧侶・尼さん・住職がいる。
- ・仏様や仏と崇められていた高僧を信仰。
- ・合掌する。御本尊（仏像）を拝み見てお祈りを捧げる。
- ・死後の極楽浄土や現世での幸せを誓う（自力本願）。（祀られている仏様によって現世か来世か異なる）
- ・鐘・鐺口（わにぐち）・お墓がある。
- ・故人を仏葬し、位牌を祀り、仏壇に礼拝する。
- ・初七日、四十九日、一年忌、三年忌などを行う。



明日行ける世界遺産……アソコとアソコ、実は血がつながっているのです。

がもわけいかづちじんじや 賀茂別雷神社（上賀茂神社）

息子（孫）←

御祭神・賀茂別雷大神（かもわけいかづちのおおかみ）

厄除け・落雷除の神様。神名の「ワケ」は「分ける」の意。「雷を別けるほどの力を持つ神」という意味で「雷神」ではありません。ある日、巫女のタマヨリヒメが境内を流れる小川で遊んでいたら、川上から丹塗矢（にぬりや）が流れてきました。その矢を持ち帰り、床に置いて寝たところ、なぜか妊娠し、男の子を出産しました。その子が成人した時、その祝宴の席でおじいちゃんのお賀茂建角身命が「君のお父上にもこの酒を飲ませてあげなさい」と言ったら、「僕は天神の子だよ！」と言って、屋根を突き抜け天に昇っていったので、父親が神であることがわかり、賀茂別雷大神と呼ばれるようになりました。丹塗矢の正体は、火雷神（ほのいかづちのかみ）だと言われています。ちなみに、お母さんのタマヨリヒメ（玉依媛命）は、第一摂社の片岡社に縁結びの神様として祭られています。



→おじいちゃんとお母さん

がもみおやじんじや 賀茂御祖神社（下鴨神社）

御祭神①西殿・賀茂建角身命（かもたけつねのみこと）

賀茂別雷大神のおじいちゃん。もともと日向高千穂に住んでいたのですが、タカムスビとアマテラス（←超偉い神様）からのお告げにより、ヤタガラスに姿をかえて、神武天皇が紀州熊野から大和へ至る道を先導し、東征が宿敵を倒して大和朝廷を開く手助けをしました。その為、導きの神・勝利の神と言われていました。（ヤタガラスはサッカー協会のシンボルとして有名ですね）その後、奈良から鴨川をさかのぼって上賀茂あたりに移住し、京都の守護神と呼ばれるようになりました。

御祭神②東殿・玉依媛命（たまよりひめのみこと）

本名は建玉依姫命（たけたまよりひめのみこと）。賀茂建角身命の次女で、賀茂別雷大神のお母さん。「タマヨリ」という神名は「神霊の依り代」を意味し、タマヨリヒメは巫女を指します。日本神話には神の子を宿ったタマヨリヒメが沢山出てきますがそれぞれ別人。縁結びや安産の神様です。



ろくおんじ 鹿苑寺（金閣寺）

おじいちゃん←

室町幕府3代将軍 足利義満により創建された禅寺。

義満は、室町時代に最も力を持った将軍と言われ、その力の象徴が黄金に光り輝く金閣寺です。義満は、南北朝を統一し、勘合貿易を行い、北山文化を開いて、室町時代の政治、経済、文化の最盛期を築きあげたデキる将軍。勘合貿易で莫大な富を手にした義満は、荒れ果てた西園寺を譲り受け、「北山殿」と呼ばれる邸宅を造営しました。別邸とはいえ北山殿は御所に匹敵する大規模なもので義満はここで政治の実権を握りました。ただ、農民からは、寺院にお金をかけすぎ・戦争しすぎという不満もあったようです。義満の没後、遺言により建物1つを残して北山殿は解体。残った1つを禅寺とし義満の法名「鹿苑院殿」から鹿苑寺と名付けられ、その華やかな見た目から、「金閣寺」と呼ばれるようになりました。



→孫

ひがしさんじしょうじ 東山慈照寺（銀閣寺）

室町幕府8代将軍 足利義政によって創建された禅寺。

義政は義満の孫。おじいちゃんと違って、政（まつりごと）に興味がなく、たった9歳の自分の息子（義尚）のサポートもせず家出をしたり、大飢饉が発生したのに無策&家を豪華に改装して天皇に怒られたりしたへなちょこ将軍。しかし芸道に優れ、茶道、華道、香道（日本の芸道）を好み、特に庶民にお茶を飲む文化を発展させました。義政は生涯をかけて自らの美意識のすべてを投影し、東山文化の真髓たる簡素枯淡（かんそこたん）の美を映す東山殿を作り上げました。そこで、お茶を楽しんだり、習字、筆で書く絵で余生を送っていたそうです。義政の没後、その東山殿が臨濟宗の寺院となり、義政の法名「慈照院」より慈照寺と名付けられました。銀閣寺の名の由来は江戸時代で、金閣寺に対して「銀閣寺」と呼ばれるようになりました。華やかな金閣寺に比べ、「わびさびの銀閣寺」と言われています。



他にも、清水寺・醍醐寺・平等院・高山寺・姫路城等等、関西は紅葉がキレイな世界遺産に恵まれていますね♪

出典：ウィキペディア、臨濟宗相国寺派、下鴨神社、上賀茂神社等